

2025年8月27日（水）@徳島大学

SPODフォーラム2025 参加者企画枠

「フューチャー・デザインで大学の未来を考える」

- ・ 佐藤浩輔（大阪体育大学）
- ・ 塩川雅美（龍谷大学）
- ・ 森下 覚（東京都市大学）

ワークショップの到達目標

1. フューチャー・デザインについて説明できる
2. 「温故知新」：歴史に学ぶ重要性について説明できる。
3. これから起こることを感知する重要性を説明できる。

本日の流れ

1. ファシリテーター自己紹介
2. ワークショップの到達目標
3. グループ内での自己紹介&アイスブレイク
4. 「過去」を振り返る
5. 「現在」をみつめる (Present Design)
6. 現在から先人へのメッセージ (Past Design)
- 休憩 -
7. 「2060年の大学」を考える
8. 2060年から2025年へのメッセージ (Future Design)
9. 全体シェア
10. まとめに代えて

グループ内での自己紹介&アイスブレイク

名前を覚えて、よいチームとなりましょう！

●1巡目 大学名の五十音順の早い人から 時計まわり
前の方の名前を全部言ってから、自分の名前を言う

①「〇〇です」

②「〇〇さんの隣の△△です」

●2巡目 名前の五十音順の後の人から 時計まわり
大学名もセットで

④「A大学の●●です」

③「A大学の●●さんの隣のB大学の□□です」

「過去」を振り返る (Past Design)

「現在」をみつめる (Present Design)

(1) 18歳人口の減少

2035年には18歳人口は100万人割れの97万人再び人口減少フェーズ

2035年以降は18歳人口が急減⇒猶予は残り10年しかない

2024年の出生率は
68.6万人

※前年比5.6%減(過去最低を更新)

18年後の大学進学数
約40万人(2/3)

※2024年度大学進学率:59.1%

(2)地方の衰退

50年時点の人口は20年と比べ、東京都や沖縄県などを除き、総人口が30%減する都道府県が11県に達する

(3)定員割れと財政悪化

少子化・18歳人口の減少が
様々な方面で影響を与えている

- ・学生募集を停止する私立大学、短大の増加
- ・女子大学の共学化が進む
- ・少子化の加速が迫り大学淘汰



各大学は生き残りを図ろうと懸命に大学改革

- ・定員割れとなる大学がさらに増加
- ・学生からの納付金が減少⇒収入減
- ・収支悪化による縮小均衡ができなければ破綻

(4)淘汰・再編

国公立大の枠を超えた連携、再編・統合の議論は避けることができない状況

今後の高等教育の目指すべき姿

「知の総和」の向上のために高等教育政策を実施する上で、政策目的（追求すべき価値）として、「質（Quality）」「規模（Size）」「アクセス（Access）」を設定する。

● 3つの目的の関係
「質」、「規模」、「アクセス」の3つの目的（価値）は、常に調和するわけではなく、トレードオフの関係になることもあり得るため、価値の選択と調整が必要である。そのため、バランスよく、かつ効果的に達成するための制度及び資源配分の在り方について、幅広いステークホルダーの議論を踏まえながら検討することが重要である。

1. 今後の高等教育の目指すべき姿

直面する課題

社会の変化 世界：環境問題、国際情勢の緊張化、AI進展 等
国内：急速な少子化、労働供給不足
高等教育を取り巻く変化 学修者本位の教育への転換等

大学進学者数推計
(出主低位・死亡低位)
62.7万人 ▶ 59.0万人 ▶ **46.0万人** (約27%減)
(2021) (2035) (2040)

未来像・人材像

目指す未来像
一人一人の多様な幸せと社会全体の豊かさ(well-being)の実現を核とした、持続可能な活力ある社会
育成する人材像
持続可能な活力ある社会の担い手や創り手として、真に人が果たすべきことを果たせる力を備え、人々と協働しながら、課題を発見し解決に導く、学び続ける人材

高等教育が目指すべき姿

我が国の「知の総和」の向上

➢ 目指す未来像の実現のためには、「知の総和」（数×能力）を向上することが必須
➢ 「知の総和」の向上のためには、教育研究の質を上げ、意欲ある全ての人が高等教育を享受できるよう社会的に適切な規模の高等教育機会を供給し、地理的・社会経済的な観点からのアクセス確保によって高等教育の機会均等の実現を図ることが必要

高等教育政策の目的

「質」の向上 : 教育研究の質の向上を図ることであり、学生一人一人の能力を最大限高めること
「規模」の適正化 : 社会的に適切かつ必要な高等教育機会の量的な確保
「アクセス」確保 : 地理的・社会経済的な観点からの高等教育の機会均等の実現

3つの目的（価値）は、常に調和するわけではなく、トレードオフの関係になることもあり得るため、価値の選択と調整が必要
急速な少子化等を踏まえた高等教育全体の「規模」の適正化を図りつつ、それによって失われるおそれのある「アクセス」確保策を講じるとともに、「規模」の縮小をカバーし、知の総和を向上するために教育研究の「質」を高める

重視すべき観点

①教育研究の観点
ア、未来社会を担う人材に必要な資質・能力の育成（文理横断・融合教育等）
イ、成長分野を創出・けん引する人材等の育成
ウ、デジタル化の推進（AI活用等）
エ、国際競争の中での研究力強化

②学生への支援の観点
ア、学生の多様性・流動性の向上（留学生、社会人、障害のある学生等）
イ、学生への経済的支援充実（社会全体で支える学生の学び）

③機関の運営の観点
ア、高等教育機関の多様性確保
イ、高等教育機関の運営基盤の確立（ガバナンス改革等）
ウ、国際化の推進（留学モビリティ拡大等）

④社会の中における機関の観点
ア、社会との接続・連携強化
イ、人材育成等を核とした地方創生の推進
ウ、初等中等教育との接続の強化
エ、情報公表による信頼獲得

(5)健康寿命と平均寿命

90歳まで生存する人の割合
男性26.0%、女性50.1%

平均寿命が延び続けることが予想される
現時点でも男性81.09歳、女性87.14歳

男女とも70歳を超える健康寿命は
延び続けている

人生100年時代では、従来の教育・仕事・退職という人生設計モデルは通用しなくなる。

人生のさまざまなタイミングで学び直しや転職、育児などを行う、マルチステージの人生モデルが必要になる。

⇒学び直し、リスキリングなどで新しい知識やスキルを身に付ける
必要がある

現在から先人へのメッセージ

グループワークⅠ＜Past Design 体験＞

過去35年間の大学に関係した法令や
大学に影響を与えたできごとなどを振り返り、
大学業界の先人への「ありがとう」と
メッセージを送りたいことについて

グループ内で話し合ってください。＜5分＞

7. 「2060年の大学」を考える (Future Design)

2025年度SPODワークショップ
2701F フューチャー・デザインで大学の未来を考える

話題提供

これから起こりうること ～変化する社会と未来～

東京都市大学 企画・広報課 森下 寛



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education

宇宙旅行



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education

月・火星への進出



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education





暑

極端降水・線状降水帯



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



南海トラフ巨大地震



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



医療技術の発達



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



平均寿命の増加と高齢化の進展



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



脳チップの埋め込み



SPOD

四国地区大学教職員能力開発ネットワーク

Shikoku Professional and Organizational Development Network in Higher Education



脳チップの埋め込み(脳インプラント)



一般社団法人

大学行政管理学会

Japan Association of University Administrative Management



脳チップの埋め込み



一般社団法人

大学行政管理学会

Japan Association of University Administrative Management



脳とAIの融合



一般社団法人

大学行政管理学会

Japan Association of University Administrative Management



インターネットと脳の接続



一般社団法人

大学行政管理学会

Japan Association of University Administrative Management



脳と脳が融合！？



一般社団法人

大学行政管理学会

Japan Association of University Administrative Management



スターゲートの法則

チップ数
10倍

×

チップ性能
10倍

×

モデル性能
10倍

= 1,000 倍

「2060年の大学」を考える (Future Design)



変化し続ける社会に対して大学はどうなるんだろう？

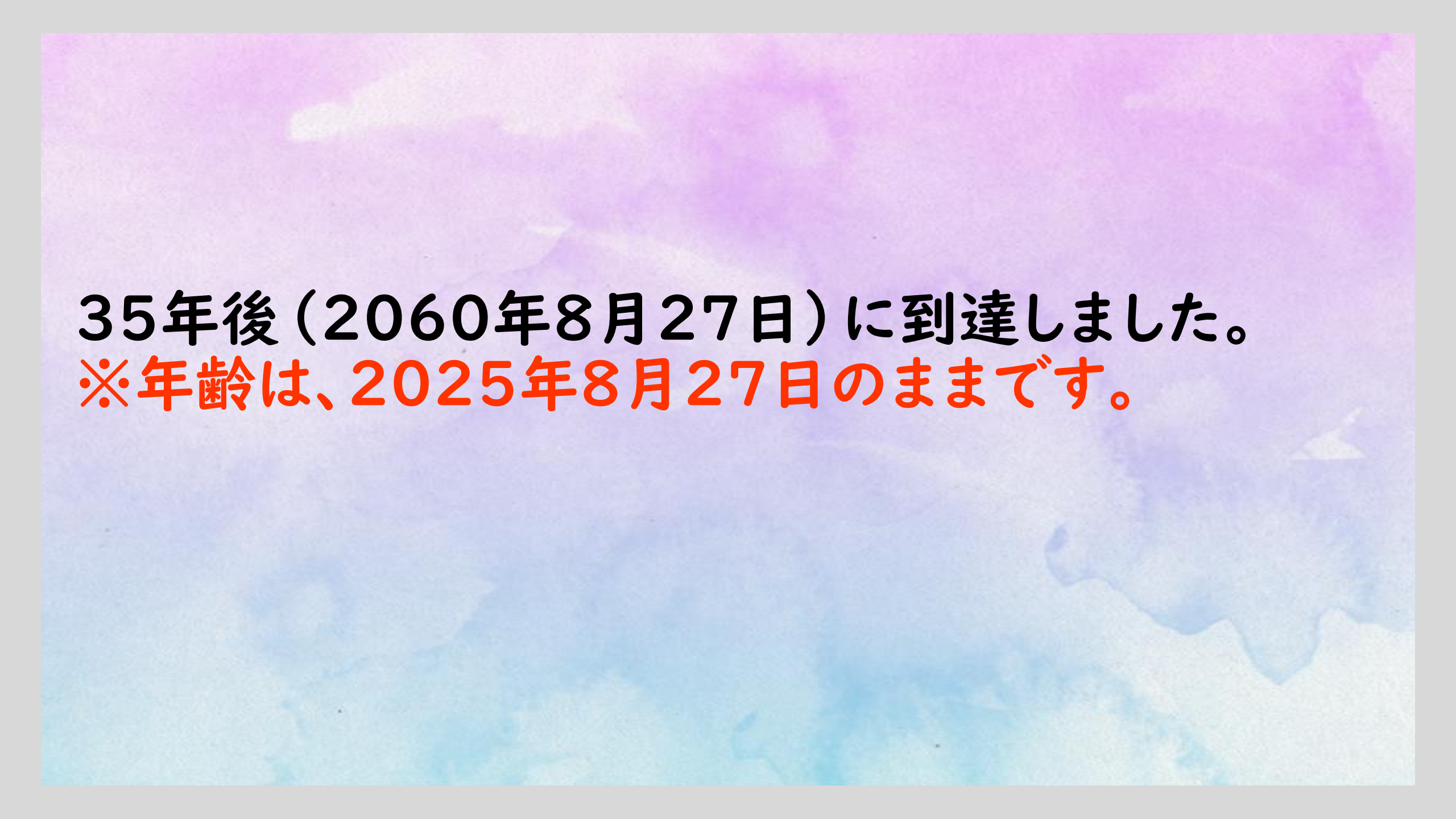
グループワーク2<Future Design 体験>

「35年後の未来人」になってみましょう。

タイムマシン装置を身につけてください。

いま、あなたはイス型のタイムマシンに
座っています

これから35年後の「2060年」に行きます。
タイムマシンを作動させますので、
映像の背中あたりを凝視して、
音が鳴り始めたら目を閉じてください。



35年後（2060年8月27日）に到達しました。

※年齢は、2025年8月27日のままです。

2060年から2025年へのメッセージ

グループワーク2

みなさんは、「35年後の未来人」です。
2060年の大学で働いています。

「2025年の大学で働く人」へのアドバイス

についてグループ内で話し合ってください。＜20分＞

グループワーク2の注意事項

2025年から2060年までのことは「過去形」で語ってください。

2060年のことを語る時は「現在形」「断定形」で語ってください。

<例>

- ・2025年に関西で万博がありましたね
- ・2030年の南海トラフ地震からの10年間は仮設校舎でした。
- ・今はAIが学生対応をしてくれるし、学生と対面で会うのは、
年度初めのオリエンテーションだけだ。

全体シェア

アドバイスの全体シェア

- ・自分の「気づき」「思ったこと」
- ・グループ内で出た話など

内容は自由です

- ・グループの代表1名が
「1分程度で」
お話してください

2025年8月27日（水）に帰ります。

タイムマシンを作動させますので、
映像の背中あたりを凝視して、
音が鳴り始めたら目を閉じてください。

まとめに代えて

5. フューチャー・デザインとは

予測不能な社会における
社会課題解決のためのアプローチとして
2015年4月に

「フューチャー・デザイン

七世代先を見据えた社会」(勁草書房)で
西條辰義氏(現 京都先端科学大学 特任教授)が提唱。

5. フューチャー・デザインとは



2024年12月に財務省が開設した
「はじめてのフューチャー・デザイン」のホームページ
<https://www.futuredesign.go.jp>

現在の視点から

Present
Design

「未来のゴール」を設定する
Fore Casting

未来のゴールに向かって「現在の行動」を考える
Back Casting

**「現在から過去」を振り返る
Past Design**

「未来から現在」を振り返る
Future Design

5. フューチャー・デザインとは

西條辰義著

「フューチャー・デザイン」

日本経済新聞出版、2024年7月。

5. フューチャー・デザインとは

フューチャー・デザイン・コンソーシアム

<https://www.future-design-consortium.org>



フューチャー・デザインのイントロダクション

<https://www.youtube.com/watch?v=kA5PTSXE7bU>

5. フューチャー・デザインとは

FUTURE DESIGN 2025

2025年

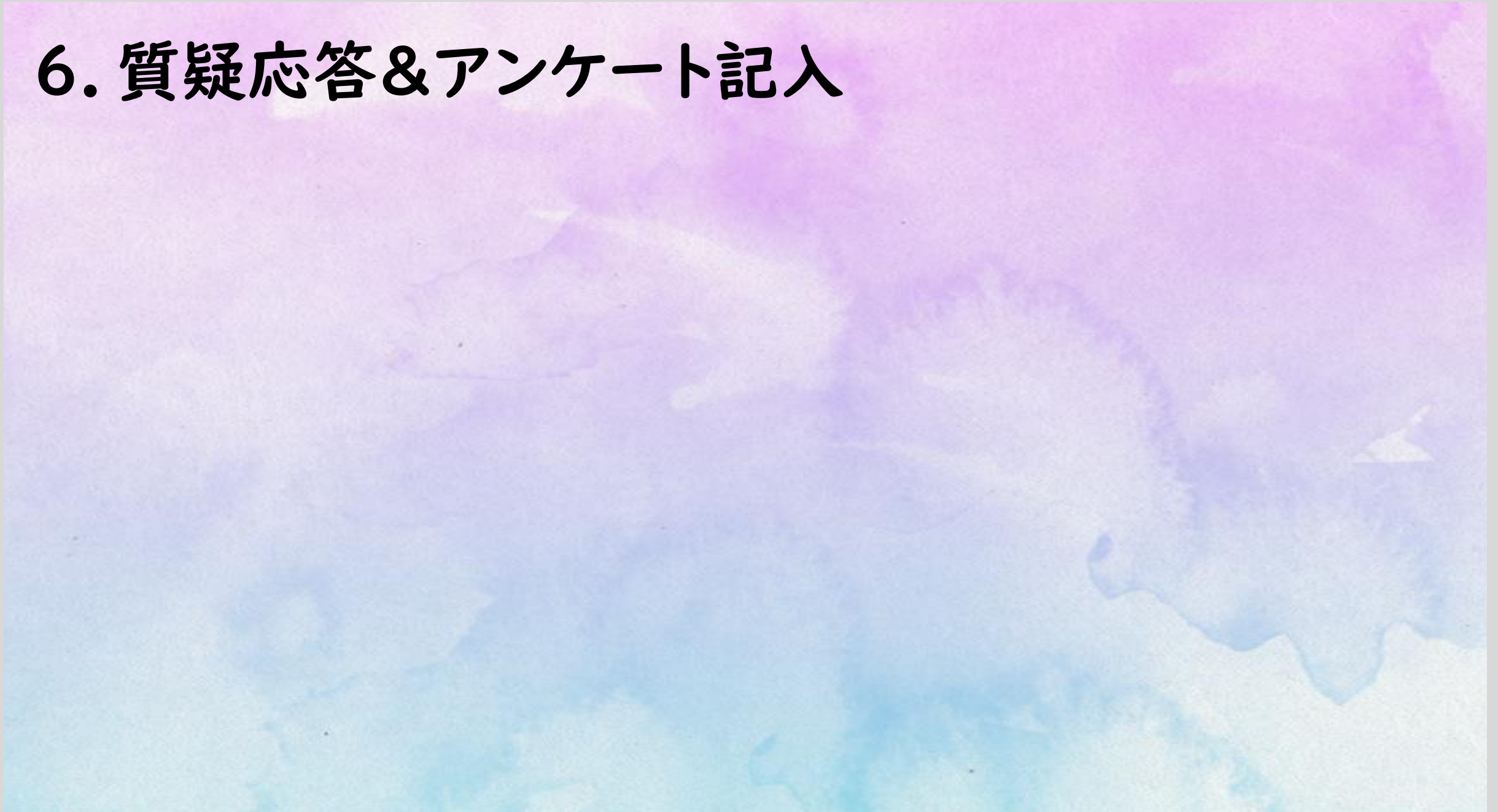
9月13日(土) 10:00~

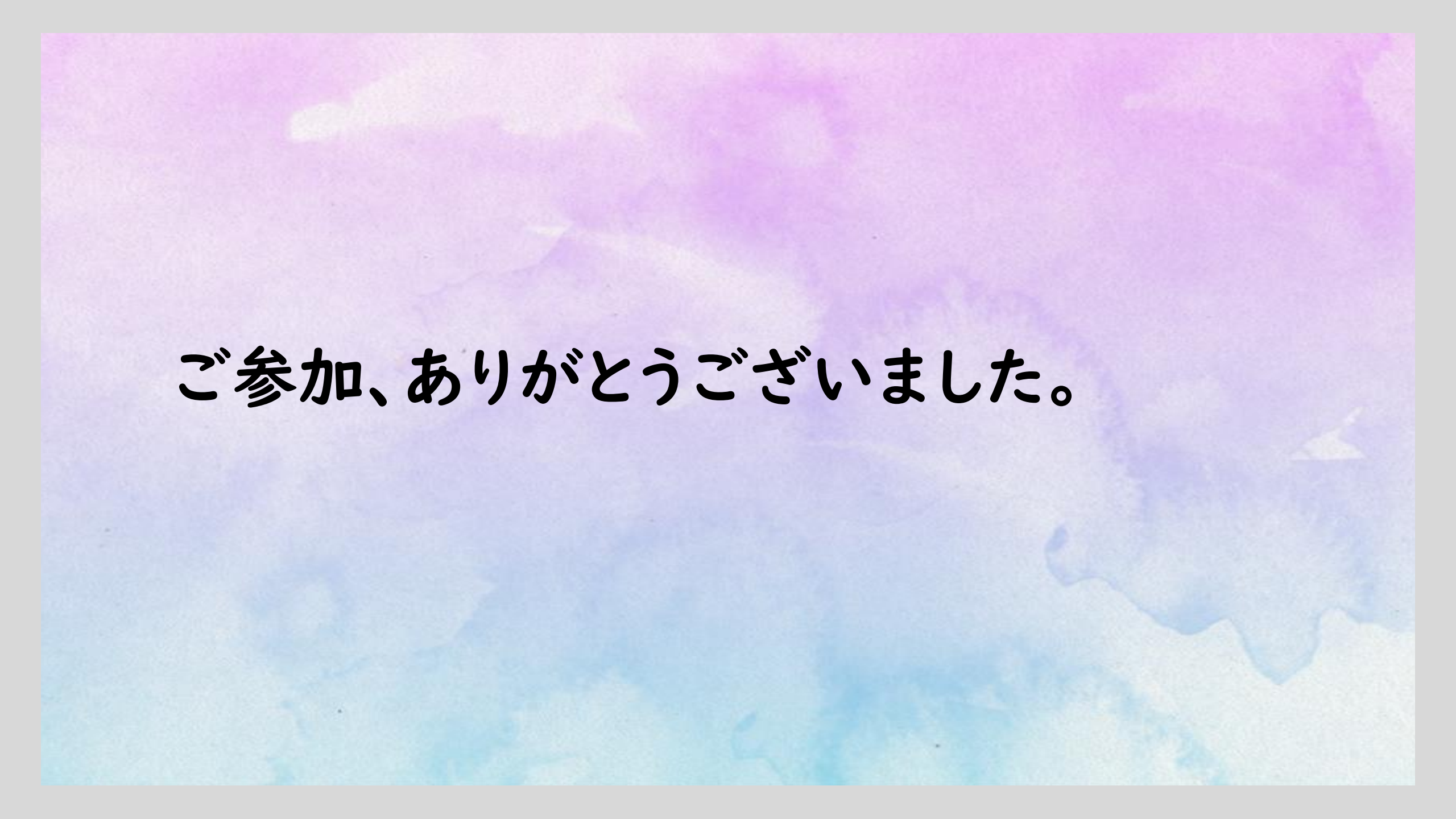
9月14日(日) 9:30~

オンライン開催

<https://ri-futuredesign.com/fd2025>

6. 質疑応答&アンケート記入



A watercolor-style background with soft, blended colors of purple, lavender, and light blue. The colors are more concentrated at the top and fade into a lighter, almost white, area at the bottom. The texture is soft and painterly.

ご参加、ありがとうございました。